

サンゴ保護 生活の礎

島しょ国 現状報告

観光活用し地域振興

沖縄科学技術大学院大学で29日始まった「地球温暖化防止とサンゴ礁保全に関する国際会議」(主催・環境省、沖縄県)のパネルディスカッションでは、太平洋島しょ国の代表者や県内の関係者らが自然保護政策や、観光産業との共生などを考えた。地域との連携のほか、ごみ問題など現状や課題を報告、豊かな自然を次世代にどう残していくか論議した。

(1面参照)



自然と共生する社会のあり方について意見を述べ合うパネリストら=29日午後3時30分、恩納村谷茶・沖縄科学技術大学院大学

還元していける資金調達のメカニズムを工夫した」と語った。

モルディブのマリヤム・シャキール環境エネルギー相は、地球温暖化は深刻だとして「各国がリーダーシップを発揮し、行動する必要がある」と訴え。また「残念ながら、島の一部の地域

ではごみの管理に対する十分な対応ができていない。早期に対応しないと『いけない』と話した。

琉球大学の金城肇学長は、県内の赤土流出による海洋汚染を紹介し、廃ガラスを再利用した素材でサンゴ礁の環境造成などに利用していると報告。NPO法人日本エコツアーズ協会の開梨善理事は、西表島や東村でのエコツアーの成功例を挙げ「子どもや高齢者が活気づき、昔ながらの知恵を学ぶ動きも出た。エコツアーズが地域を元気に輝かせると語った。

オーストラリア・グレートバリアリーフ海洋公園局長のアンドリュー・スキートさんは、環境悪化の要因を「気候変動や水質悪化、漁業活動など全体的に考えることが必要」と指摘。多数の観光客が訪れる同地域について「美しい自然は、観光業界にとって生活の基盤。先頭になって保護に取り組んでもらっている」とし、事業者や住民らが自主的に海岸を管理し、意識を高めていると紹介した。

パラオのエルブエル・サダン官房長官は世界有数の美しい自然が、開発や収益重視の漁業などで悪化、サンゴの白化が進んだ歴史を紹介。「観光税を導入し、下水道を整備したことで悪化が改善した。行政が自然を管理し地域に